

平成30年5月8日

各 位

上場会社名 株式会社 名村造船所
代表者 代表取締役社長 名村 建介
(コード番号 7014)
問合せ先責任者 取締役執行役員経營業務本部長 池邊 吉博
(TEL 06-6543-3561)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年5月11日の公表に向けて作業を進めております平成30年3月期通期連結業績につきまして、平成29年5月12日公表の業績予想値より大幅に悪化する見込みとなったことを、お知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	140,000	△ 4,200	△ 4,400	△ 4,700	△ 68.11
今回修正予想(B)	134,900	△ 19,400	△ 20,300	△ 20,600	△ 298.53
増減額(B)-(A)	△ 5,100	△ 15,200	△ 15,900	△ 15,900	
増減率(%)	△ 3.6	-	-	-	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	137,208	△ 9,320	△ 9,806	△ 11,308	△ 163.88

通期業績予想修正の理由

平成30年3月期通期連結業績予想の修正理由は、以下のとおりです。

業績悪化の主たる要因は、第4四半期に確定した鋼材価格の大幅値上げと円高（期初公表時の予想レートは1米ドルあたり110円、平成30年3月末レートは106円24銭）、受注競争の激化による受注船価の低迷など、グループの中核事業である新造船事業の損失拡大であります。

特に連結子会社である佐世保重工業株式会社はこれらの要因に加えて、主力商品である中型撒積運搬船の需要低迷時に数年ぶりに受注した欧州船主向け中型油送船建造において想定以上の高仕様・高品質を求められたことや、過去の数度に亘る合理化による人材の流出と設備更新の遅れにより工程混乱・納期遅延を招き、営業損失が期初予想よりも約90億円拡大（工事損失引当金は期初予想から約60億円増加）して約120億円となる見込みです。同社の体質強化にはグループの総力を挙げて取り組んでおり、新規受注船は同社の得意とする中型撒積運搬船が中心であることから、今後の収益は改善されるものと見ております。

以上